

授業科目	グルーミング演習Ⅳ		担当教員	佐藤 真帆	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	グルーミング実践の基礎を理解した上でカットの基本を学び技術を身に付ける。				
到達目標	犬種に合わせたカット技術の習得。グルーミング作業のスピードアップ。				
テキスト・参考図書等	グルーミング実習着・エプロン・グルーミング道具・ウィッグ				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	小テスト：70%授業内で小テスト（実技試験）を行う。 その他：30%授業内の取り組みを評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	70			
	提出物	0			
	その他	30			
履修上の留意事項	講義内容は進度により変更する事があります。 ウィッグを使用して授業を進行する場合があります。 当日のモデル犬種により授業内容が変更になる場合があります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	グルーミング実習 1	犬種に合わせたカット（飾り毛等） ①		
	2	グルーミング実習 1	犬種に合わせたカット（飾り毛等） ①		
	3	グルーミング実習 2	犬種に合わせたカット（飾り毛等） ②		
	4	グルーミング実習 2	犬種に合わせたカット（飾り毛等） ②		
	5	グルーミング実習 3	犬種に合わせたカット（飾り毛等） ③		
	6	グルーミング実習 3	犬種に合わせたカット（飾り毛等） ③		
	7	グルーミング実習 4	犬種に合わせたカット（飾り毛等） ④		
	8	グルーミング実習 4	犬種に合わせたカット（飾り毛等） ④		
	9	グルーミング実習 5	グルーミング作業のスピードアップ ①		
	10	グルーミング実習 5	グルーミング作業のスピードアップ ①		
	11	グルーミング実習 6	グルーミング作業のスピードアップ ②		
	12	グルーミング実習 6	グルーミング作業のスピードアップ ②		
	13	グルーミング実習 7	グルーミング作業のスピードアップ ③		
	14	グルーミング実習 7	グルーミング作業のスピードアップ ③		
	15	グルーミング実習 8	グルーミング作業のスピードアップ ④		
	16	グルーミング実習 8	グルーミング作業のスピードアップ ④		
17	グルーミング実習 9	ベISING前作業の強化 スピードアップ ①			

	18	グルーミング実習 9	ベISING前作業の強化 スピードアップ ①
	19	グルーミング実習 10	ベISING前作業の強化 スピードアップ ②
	20	グルーミング実習 10	ベISING前作業の強化 スピードアップ ②
	21	グルーミング実習 11	ドライグ強化 スピードアップ
	22	グルーミング実習 11	ドライグ強化 スピードアップ
	23	グルーミング実習 12	カット全般強化①/小テスト (実技試験)
	24	グルーミング実習 12	カット全般強化①/小テスト (実技試験)
	25	グルーミング実習 13	カット全般強化②/小テスト (実技試験)
	26	グルーミング実習 13	カット全般強化②/小テスト (実技試験)
	27	グルーミング実習 14	カット全般強化③/小テスト (実技試験)
	28	グルーミング実習 14	カット全般強化③/小テスト (実技試験)
	29	グルーミング実習 15	カット全般強化④/小テスト (実技試験)
	30	グルーミング実習 15	カット全般強化④/小テスト (実技試験)

授業科目	グルーミング演習Ⅳ	担当教員	佐藤 真帆	動物病院
		実務経験	有： ☒ 無： ☐	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3年・前期	担当教員	久保田ルリ子	トリマー
授業形態		実務経験	有： ☒ 無： ☐	
		担当教員	高畑利江	トリマー
		実務経験	有： ☒ 無： ☐	
		担当教員	佐々木珠代	トリマー
		実務経験	有： ☒ 無： ☐	
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
実務経験				

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	比較動物学Ⅰ	担当教員	前鼻 彰人		
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、実験動物との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。				
到達目標	産業動物について理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 6 巻 動物行動学／愛玩動物学／比較動物学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験：60％ レポート：10％（岩見沢農業高等学校見学実習） 小テスト：30％		
	レポート	10			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	牛 1	牛の歴史と品種、特徴		
	2	牛 2	牛の形態機能と繁殖		
	3	牛 3	牛の飼養管理と疾病		
	4	豚 1	豚の歴史と品種、特徴、小テスト		
	5	豚 2	豚の形態機能と繁殖		
	6	豚 3	豚の飼養管理と疾病		
	7	馬 1	馬の特徴と解剖		
	8	馬 2	馬の飼養管理と疾病		
	9	畜産と酪農	岩見沢農業高等学校見学実習		
	10	鶏 1	鶏の歴史と品種、特徴、小テスト		
	11	鶏 2	鶏の形態機能と繁殖		
	12	鶏 3	鶏の飼養管理と疾病		
	13	羊と山羊 1	羊と山羊の特徴と解剖		
	14	羊と山羊 2	羊と山羊の飼養管理と疾病		
	15	総復習	総括とまとめ、小テスト		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物繁殖学	担当教員	佐藤 真帆		
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。				
到達目標	生殖器から妊娠分娩に関して、また新生子管理と遺伝について理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 1 巻 動物形態機能学／動物繁殖学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70％ 小テスト：30％		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	繁殖器官 1	犬の生殖器（雄、雌）		
	2	繁殖器官 2	猫の生殖器（雄、雌）		
	3	繁殖器官 3	生殖器の機能		
	4	精子	精子形成		
	5	卵子	卵子形成		
	6	ホルモン 1	精巣のホルモン、小テスト		
	7	ホルモン 2	卵巣のホルモン		
	8	性周期 1	犬の発情周期		
	9	性周期 2	猫の発情周期		
	10	交配と妊娠と分娩 1	犬、猫の交尾、受精、妊娠		
	11	交配と妊娠と分娩 2	分娩		
	12	不妊手術	去勢と避妊手術、帝王切開		
	13	新生子管理 1	新生子の機能形態、小テスト		
	14	新生子管理 2	新生子の先天性疾患		
	15	遺伝学概論	遺伝の基礎知識、小テスト		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物内科看護学実習Ⅳ		担当教員	前鼻 彰人	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				
到達目標	生体検査の技術を修得する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト（第3版） 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ7巻 動物内科看護学／動物臨床検査学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70% 小テスト：30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	生体検査 1	X 線検査の基本保定①		
	2	生体検査 2	X 線検査の基本保定②		
	3	生体検査 3	X 線検査撮影のための基本知識①		
	4	生体検査 4	X 線検査撮影のための基本知識②		
	5	生体検査 5	X 線検査撮影の補助		
	6	生体検査 6	超音波検査の基本保定①		
	7	生体検査 7	超音波検査の基本保定②		
	8	生体検査 8	超音波検査の補助①		
	9	生体検査 9	超音波検査の補助②		
	10	生体検査 10	心電図検査の補助、小テスト		
	11	生体検査 11	心電図検査の保定		
	12	生体検査 12	心電図検査の手技		
	13	生体検査 13	心電図検査の記録方法		
	14	生体検査 14	神経学的検査の基本的知識		
	15	生体検査 15	神経学的検査の記録、小テスト		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物外科看護学実習Ⅱ		担当教員	前鼻 彰人	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				
到達目標	術前準備の技術を修得する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト(第3版) 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ8巻 動物栄養学／動物外科看護学／動物医療コミュニケーション				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験: 70% 小テスト: 30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	術前検査 1	手術室に入る前の準備		
	2	術前検査 2	手術前の準備（スクラブ法）		
	3	術前検査 3	手術前の準備（ラビング法）		
	4	術前検査 4	手術前の準備（ガウニング） 小テスト		
	5	術前検査 5	グローピング（クローズ法とオープン法）		
	6	術前検査 6	器具の取り扱い① 小テスト		
	7	術前検査 7	器具の取り扱い②		
	8	術前検査 8	縫合針と縫合糸		
	9	術前検査 9	手術器具の準備		
	10	術前検査 10	手術器具の滅菌方法 小テスト		
	11	術前検査 11	ドレープの取り扱い		
	12	術前検査 12	術前準備（総合演習）①		
	13	術前検査 13	術前準備（総合演習）②		
	14	術前検査 14	術前準備（総合演習）③		
	15	術前検査 15	術前準備（総合演習）④		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物臨床看護学実習Ⅰ		担当教員	佐藤 真帆	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				
到達目標	動物看護過程を実践し、看護計画と看護記録が作成できる。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト（第3版） 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ9巻 動物臨床看護学総論／動物臨床看護学各論				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験:70% 小テスト:30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	動物看護過程の実践 1	アセスメント練習①		
	2	動物看護過程の実践 2	アセスメント練習②		
	3	動物看護過程の実践 3	アセスメント練習③		
	4	動物看護過程の実践 4	看護診断の優先順位①、小テスト		
	5	動物看護過程の実践 5	看護診断の優先順位②		
	6	動物看護過程の実践 6	看護診断の優先順位③		
	7	動物看護過程の実践 7	観察項目の立案①、小テスト		
	8	動物看護過程の実践 8	観察項目の立案②		
	9	入院及び栄養管理 1	入院動物の管理とアセスメント①		
	10	入院及び栄養管理 2	入院動物の管理とアセスメント②		
	11	動物看護過程の実践 9	看護動物の援助内容の立案①、小テスト		
	12	動物看護過程の実践 10	看護動物の援助内容の立案②		
	13	動物看護過程の実践 11	看護動物の援助内容の立案③		
	14	動物看護過程の実践 12	看護動物の援助内容の立案④		

	15	動物看護過程の実践 13	看護動物の援助内容の立案⑤
--	----	-----------------	---------------

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	国家試験対策Ⅲ		担当教員	前鼻 彰人	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	愛玩動物看護師免許取得に向けて、問題演習を行い資格取得に必要な知識を復習する。				
到達目標	愛玩動物看護師免許取得				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	20	評価試験：80% ・試験①20% 必須問題 50 点満点とし、満点は 20 ポイント (P) とする。 1 点を 0.5P とし、49 点 (19.5P)、48 点 (19P) と、20P からの減点方式とする。 35 点 (12.5P) までポイントを算出し、35 点未満については「ポイントなし (ゼロ)」とする。 ・試験②60% (その他) 実地/一般問題 150 点満点とし、満点は 60 ポイント (P) とする。 1 点を 0.5P とし、149 点 (59.5P)、148 点 (59P) と、60P からの減点方式とする。 90 点 (30P) までポイントを算出し、90 点未満については「ポイントなし (ゼロ)」とする。 小テスト：20% ・模擬試験 4 回(国家試験過去問第 1 回～4 回)		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	60			
履修上の留意事項	「卒業認定試験」として 200 問試験を実施				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	Computer Based Training	分野別問題集 (公衆衛生学) ①		
	2	Computer Based Training	分野別問題集 (公衆衛生学) ①		
	3	Computer Based Training	分野別問題集 (公衆衛生) ②		
	4	Computer Based Training	分野別問題集 (公衆衛生) ②		
	5	Computer Based Training	分野別問題集 (動物薬理学) ①		
	6	Computer Based Training	分野別問題集 (動物薬理学) ①		
	7	Computer Based Training	分野別問題集 (動物薬理学) ②		
	8	Computer Based Training	分野別問題集 (動物薬理学) ②		
	9	Computer Based Training	分野別問題集 (動物繁殖学)		

	10	Computer Based Training	分野別問題集（動物繁殖学）
	11	Computer Based Training	分野別問題集（動物病理学）
	12	Computer Based Training	分野別問題集（動物病理学）
	13	Computer Based Training	分野別問題集（動物臨床検査学）①、小テスト
	14	Computer Based Training	分野別問題集（動物臨床検査学）①、小テスト
	15	Computer Based Training	分野別問題集（動物臨床検査学）②
	16	Computer Based Training	分野別問題集（動物臨床検査学）②
	17	Computer Based Training	分野別問題集（愛玩動物学）
	18	Computer Based Training	分野別問題集（愛玩動物学）
	19	Computer Based Training	分野別問題集（比較動物学）
	20	Computer Based Training	分野別問題集（比較動物学）
	21	Computer Based Training	分野別問題集（動物形態機能学実習）、小テスト
	22	Computer Based Training	分野別問題集（動物形態機能学実習）、小テスト
	23	Computer Based Training	分野別問題集（動物内科看護学実習）①
	24	Computer Based Training	分野別問題集（動物内科看護学実習）①
	25	Computer Based Training	分野別問題集（動物内科看護学実習）②、小テスト
	26	Computer Based Training	分野別問題集（動物内科看護学実習）②、小テスト
	27	Computer Based Training	分野別問題集（動物外科看護学実習）①
	28	Computer Based Training	分野別問題集（動物外科看護学実習）①
	29	Computer Based Training	分野別問題集（動物外科看護学実習）②、小テスト
	30	Computer Based Training	分野別問題集（動物外科看護学実習）②、小テスト

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物外科看護学実習Ⅲ		担当教員	前鼻 彰人		
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。					
到達目標	術中補助と術後管理、救急救命の技術を修得する。					
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト(第 3 版) 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 8 巻 動物栄養学／動物外科看護学／動物医療コミュニケーション					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	70	評価試験: 70% 小テスト: 30%			
	レポート	0				
	小テスト	30				
	提出物	0				
	その他	0				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題		履修内容		
	1	術中補助 1	麻酔器の各部名称			
	2	術中補助 2	麻酔器の取り扱い			
	3	術中補助 3	麻酔器の術前準備(リークテスト、操作方法)			
	4	術中補助 4	モニターの接続			
	5	術中補助 5	モニタリングの方法①			
	6	術中補助 6	モニタリングの方法②			
	7	術中補助 7	麻酔記録の作成、小テスト			
	8	術中補助 8	歯科器具の取り扱い			
	9	術後管理 1	抜歯の補助、創傷管理と包帯			
	10	術後管理 2	リハビリテーション			
	11	救急救命 1	気管挿管の補助、小テスト			
	12	救急救命 2	薬剤の準備			
	13	救急救命 3	BLS			
	14	救急救命 4	ALS			
	15	救急救命 5	救命時のモニタリング、小テスト			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	国家試験対策Ⅱ		担当教員	前鼻 彰人	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	愛玩動物看護師免許取得に向けて、問題演習を行い資格取得に必要な知識を復習する。				
到達目標	愛玩動物看護師免許取得				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70% 小テスト：30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	Computer Based Training	分野別問題集（動物形態機能学）①		
	2	Computer Based Training	分野別問題集（動物形態機能学）②		
	3	Computer Based Training	分野別問題集（動物形態機能学）③		
	4	Computer Based Training	分野別問題集（動物形態機能学）④		
	5	Computer Based Training	分野別問題集（動物臨床看護学各論）①、小テスト		
	6	Computer Based Training	分野別問題集（動物臨床看護学各論）②		
	7	Computer Based Training	分野別問題集（動物臨床看護学各論）③		
	8	Computer Based Training	分野別問題集（動物臨床看護学各論）④		
	9	Computer Based Training	分野別問題集（動物感染症学）①、小テスト		
	10	Computer Based Training	分野別問題集（動物感染症学）②		
	11	Computer Based Training	分野別問題集（動物感染症学）③		
	12	Computer Based Training	分野別問題集（動物内科看護学）①、小テスト		
	13	Computer Based Training	分野別問題集（動物内科看護学）②		
	14	Computer Based Training	分野別問題集（動物外科看護学）①		

	15	Computer Based Training	分野別問題集（動物外科看護学）②
--	----	----------------------------	------------------

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物臨床看護学実習Ⅱ		担当教員	佐藤 真帆	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	看護学実習で学んだ知識と技術の実践力を修得する。				
到達目標	身体検査や診察補助の技術、看護過程を実践できるようになる。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト（第3版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70％ レポート：10％（発表者は学会当日発表により 10％付与するためレポート提出はなし） 小テスト:20％		
	レポート	10			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	動物看護過程の実践 1	テーマ決め		
	2	動物看護過程の実践 2	抄録作成①		
	3	動物看護過程の実践 3	抄録作成②		
	4	動物看護過程の実践 4	抄録作成③		
	5	動物看護過程の実践 5	北海道小動物獣医師会年次大会学術研修		
	6	動物看護過程の実践 5	北海道小動物獣医師会年次大会学術研修		
	7	動物看護過程の実践 5	北海道小動物獣医師会年次大会学術研修		
	8	動物看護過程の実践 5	北海道小動物獣医師会年次大会学術研修		
	9	診察補助の実践 1	各種検査保定		
	10	診察補助の実践 2	身体検査		
	11	診察補助の実践 3	採血演習、小テスト		
	12	診察補助の実践 4	留置演習		
	13	診察補助の実践 5	輸液演習		
	14	診察補助の実践 6	総復習①		
	15	診察補助の実践 7	総復習②、小テスト		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物災害看護学Ⅱ	担当教員	前鼻 彰人		
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	災害急性期に動物救護のための獣医療を支援するための知識、技術を修得する。				
到達目標	動物災害救命士				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験：60%		
	レポート	0	小テスト：20%		
	小テスト	20	提出物：10%（感想文：総合防災訓練）		
	提出物	10	その他（問題集）：10%		
	その他	10	評価試験対策、資格試験対策用の問題集を配布するため解答し提出する		
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	避難所の開設と運営 1	ICS と CSCA（TTT と HHH）		
	2	避難所の開設と運営 2	避難所における支援方法（VMAT）、避難所設営の基礎知識		
	3	救急救命と FA 1	トリアージと FA（止血包帯、各種応急処置）		
	4	救急救命と FA 2	BLS と BLS 演習		
	5	救急救命と FA 3	ALS		
	6	救急救命と FA 4	ALS 演習		
	7	救急救命と FA 5	CPR 演習、小テスト		
	8	避難所運営 1	ペット版避難所運営方法（図上訓練）①		
	9	避難所運営 2	ペット版避難所運営方法（図上訓練）②		
	10	避難所運営 1	避難所開設訓練（CSCA に基づく各役割の行動内容）		
	11	避難所運営 2	避難所開設訓練・実践①		
	12	避難所運営 2	避難所開設訓練・実践②		
	13	避難所運営 3	CSCA に基づいた総合防災訓練①		
	14	避難所運営 3	CSCA に基づいた総合防災訓練②		
	15	避難所運営 3	CSCA に基づいた総合防災訓練③		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	比較動物学Ⅱ		担当教員	前鼻 彰人	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、実験動物との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。				
到達目標	実験動物、野生動物、展示動物について学び、動物園見学を通して野生動物の個体・群管理等を理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 6 巻 動物行動学／愛玩動物学／比較動物学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験		その他：60％		
	レポート	30	最終課題資料作成（論文形式）		
	小テスト		レポート：30％		
	提出物	10	旭山動物園見学実習レポート		
	その他	60	提出物：10％ 見学実習前の事前学習		
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	展示動物 1	野生動物保護（種の保存）と絶滅危惧		
	2	動物園見学実習	旭山動物園		
	3	動物園見学実習	旭山動物園		
	4	動物園見学実習	旭山動物園		
	5	動物園見学実習	旭山動物園		
	6	展示動物 2	動物愛護と展示動物		
	7	展示動物 3	動物実験の基本指針、3R と形質、環境管理		
	8	実験動物 1	動物実験の基本技術と特性、疾患モデル動物と代替法		
	9	実験動物 2	野生動物救護の世界		
	10	野生動物 1	最終授業課題説明、問題提起、計画作成		
	11	野生動物 2	資料準備		
	12	野生動物 3	資料準備、原稿作成		
	13	野生動物 4	資料修正、原稿修正		
	14	野生動物 5	発表練習		
	15	野生動物 6	発表		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	公衆衛生学Ⅱ	担当教員	前鼻 彰人		
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。				
到達目標	食品衛生と環境衛生について理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 5 巻 公衆衛生学/動物看護関連法規/動物愛護・適正飼養関連法規				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70% 小テスト：30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	食品衛生 1	食品衛生法		
	2	食品衛生 2	食中毒①		
	3	食品衛生 3	食中毒②		
	4	食品衛生 4	食品とアレルギー		
	5	食品衛生 5	動物性食品の衛生		
	6	食品衛生 6	食品の保存方法		
	7	食品衛生 7	食品安全行政の動向		
	8	食品衛生 8	食品由来の健康危害防止		
	9	環境衛生 1	環境衛生とは		
	10	環境衛生 2	地球規模の環境問題		
	11	環境衛生 3	水の衛生		
	12	環境衛生 4	生活環境問題①		
	13	環境衛生 5	生活環境問題②		
	14	環境衛生 6	廃棄物問題		
	15	環境衛生 7	衛生動物		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物病理学		担当教員	中村 匡佑		
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。					
到達目標	細胞や組織の変化、循環障害、炎症、腫瘍、先天異常について理解する。					
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 2 巻 動物病理学/動物薬理学					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	70	評価試験：70％ 小テスト：30％			
	レポート	0				
	小テスト	30				
	提出物	0				
	その他	0				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	動物病理学の基礎 1	病理学とは			
	2	動物病理学の基礎 2	病因			
	3	組織や細胞に生じる変化 1	傷害と細胞死①			
	4	組織や細胞に生じる変化 2	傷害と細胞死②			
	5	組織や細胞に生じる変化 3	修復と再生①			
	6	組織や細胞に生じる変化 4	修復と再生②			
	7	循環障害 1	血液と組織液の循環障害			
	8	循環障害 2	ショック・小テスト			
	9	炎症 1	定義と原因			
	10	炎症 2	形態的变化			
	11	炎症 3	分類			
	12	腫瘍 1	定義と特徴			
	13	腫瘍 2	増殖と免疫			
	14	腫瘍 3	原因と種類			
	15	先天異常	様々な異常・小テスト			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物外科看護学Ⅱ		担当教員	前鼻 彰人	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。				
到達目標	麻酔と術後管理、外傷管理や救急対応、リハビリテーションについて理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 8 巻 動物栄養学／動物外科看護学／動物医療コミュニケーション				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験:70% 小テスト:30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	外傷・創傷管理 1	創傷の種類と管理法		
	2	外傷・創傷管理 2	ドレーン管理や止血法、骨折当等の管理		
	3	麻酔 1	麻酔前投与の種類、特徴 小テスト		
	4	麻酔 2	注射麻酔の種類、特徴		
	5	麻酔 3	吸入麻酔の種類、特徴		
	6	麻酔 4	麻酔看視項目		
	7	麻酔 5	麻酔記録の作成		
	8	術後管理 1	覚醒後のモニタリング 小テスト		
	9	術後管理 2	疼痛管理等の術後管理		
	10	救急救命 1	エマージェンシーの原因と病態		
	11	救急救命 2	一次救命処置（BLS）		
	12	救急救命 3	二次救命処置（ALS）		
	13	救急救命 4	気管挿管と心肺蘇生		
	14	動物理学療法 1	理学療法の基礎 小テスト		
	15	動物理学療法 2	原理と手技		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅳ		担当教員	岩崎 忍	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	様々な疾患の病理生態を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。				
到達目標	皮膚・眼科系疾患、自己免疫・内分泌系疾患、癌、緊急を要する疾患について理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 9 巻 動物臨床看護学総論／動物臨床看護学各論				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70% 小テスト：30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	神経系疾患 1	水頭症		
	2	神経系疾患 2	てんかん		
	3	神経系疾患 3	椎間板ヘルニア、変形性脊椎症		
	4	神経系疾患 4	環軸亜脱臼、前庭疾患、小テスト		
	5	造血器・免疫介在性疾患 1	赤血球に生じる代表的な疾患		
	6	造血器・免疫介在性疾患 2	白血球に生じる代表的な疾患		
	7	造血器・免疫介在性疾患 3	その他の造血器・免疫介在性疾患		
	8	内分泌系疾患 1	下垂体、甲状腺、上皮小体に生じる代表的な疾患 ・ 小テスト		
	9	内分泌系疾患 2	膵臓、副腎、生殖腺に生じる代表的な疾患		
	10	担がん動物の看護 1	がんの基礎		
	11	担がん動物の看護 2	治療と看護内容		
	12	担がん動物の看護 3	化学療法		
	13	緊急疾患 1	中毒、誤飲、アナフィラキシー		
	14	緊急疾患 2	感電、熱傷		
	15	緊急疾患 3	熱中症、交通事故、ショック、小テスト		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物看護総合実習Ⅲ		担当教員	前鼻 彰人	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	45 回	時間数 90 時間
授業目的	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。				
到達目標	愛玩動物看護師の技術を修得する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	・実習日誌：20%（提出物） ・実習評価表：40%（提出物） ・実習オリエンテーションレポート：20%（レポート） ・実習報告会評価：20%（その他）		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	60			
	その他	20			
履修上の留意事項	看護実習着				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	実習前オリエンテーション 1	実習に必要な基礎知識の復習		
	2	実習前オリエンテーション 1	実習に必要な基礎知識の復習		
	3	実習前オリエンテーション 2	手術実習		
	4	実習前オリエンテーション 2	手術実習		
	5	手術実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践		
	6	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践		

			動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	7	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	8	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	9	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	10	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践

	11	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	12	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	13	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	14	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	15	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践

			動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	16	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	17	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	18	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	19	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践

	20	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	21	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	22	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	23	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	24	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践

			動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	25	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	26	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	27	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	28	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践

	29	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	30	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	31	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	32	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	33	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践

			動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	34	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	35	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	36	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	37	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践

	38	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	39	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	40	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	41	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	42	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践

			動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	43	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	44	動物病院実習	食餌に関する看護及び技術の実践 排泄介助技術の実践 創傷管理技術の実践 投薬技術の実践 生体機能管理技術の実践 感染予防への配慮と院内清掃、消毒の実践 周術期の看護技術の実践 動物の臨床検査補助の実践 内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量 方法、分包方法の実践 術前の準備の実践 動物の手術補助、麻酔管理の見学 手術後の器具洗浄、滅菌の実践
	45	実習報告	発表

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物薬理学Ⅱ		担当教員	中村 匡佑	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の判断や治療にどのように用いられるかを理解する。				
到達目標	循環器・泌尿器、オータコイド・内分泌・代謝、血液作動薬、免疫系、化学療法薬について理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 2 巻 動物病理学/動物薬理学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70％ 小テスト：30％		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	循環器・泌尿器 1	血管拡張、心不全治療薬		
	2	循環器・泌尿器 2	利尿薬、抗利尿薬		
	3	循環器・泌尿器 3	その他の循環器、泌尿器に関わる薬		
	4	オータコイド・内分泌・代謝 1	オータコイド		
	5	オータコイド・内分泌・代謝 2	抗炎症薬		
	6	オータコイド・内分泌・代謝 3	内分泌・代謝に関わる薬		
	7	血液作用 1	貧血と抗貧血薬		
	8	血液作用 2	血液凝固阻害剤、促進剤、その他の薬		
	9	免疫系 1	免疫に関わる因子・小テスト		
	10	免疫系 2	ワクチン、その他の薬		
	11	化学療法薬 1	抗腫瘍薬		
	12	化学療法薬 2	抗菌薬		
	13	化学療法薬 3	抗真菌薬と駆虫薬		
	14	化学療法薬 4	殺虫剤と消毒薬		
	15	化学療法薬 5	その他の化学療法薬・小テスト		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物看護関連法規		担当教員	前鼻 彰人	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・後期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	8 回	時間数 15 時間
授業目的	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。				
到達目標	愛玩動物看護師法や獣医療関連行政、公衆衛生と狂犬病予防法規、薬事行政法規について理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 5 巻 公衆衛生学／動物看護関連法規／愛玩動物・適正飼養関連法規				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70％ 小テスト：30％		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	法学総論	法の基礎知識		
	2	愛玩動物看護師法	愛玩動物看護師法の理解		
	3	獣医療関連行政法規	獣医師法		
	4	公衆衛生行政法規 1	感染症法①、小テスト		
	5	公衆衛生行政法規 2	感染症法②		
	6	公衆衛生行政法規 3	狂犬病予防法		
	7	薬事行政法規	医薬品医療機器等法		
	8	家畜衛生行政法規	家畜伝染病予防法、小テスト		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物感染症学Ⅲ		担当教員	佐藤 真帆	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	微生物や寄生虫の分類、生物学的特徴、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。				
到達目標	寄生虫の分類と特徴、診断方法と治療法を理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 3 巻 動物感染症学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70% 小テスト：30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	寄生虫の分類と特徴 1	原虫総論		
	2	寄生虫の分類と特徴 2	各種原虫症(分類、形態、生活感、病原性)と駆虫①		
	3	寄生虫の分類と特徴 3	各種原虫症(分類、形態、生活感、病原性)と駆虫②		
	4	寄生虫の分類と特徴 4	各種原虫症(分類、形態、生活感、病原性)と駆虫③		
	5	寄生虫の分類と特徴 5	各種蠕虫症・総論、小テスト		
	6	寄生虫の分類と特徴 6	各種蠕虫症・線虫(分類、形態、生活感、病原性)と駆虫①		
	7	寄生虫の分類と特徴 7	各種蠕虫症・線虫(分類、形態、生活感、病原性)と駆虫②		
	8	寄生虫の分類と特徴 8	各種蠕虫症・吸虫(分類、形態、生活感、病原性)と駆虫		
	9	寄生虫の分類と特徴 9	各種蠕虫症・条虫(分類、形態、生活感、病原性)と駆虫		
	10	寄生虫の分類と特徴 10	各種衛生動物総論、小テスト		
	11	寄生虫の分類と特徴 11	各種衛生動物総論・ダニ(分類、形態、生活感、病原性)と駆虫		
	12	寄生虫の分類と特徴 12	各種衛生動物総論・ノミ、シラミ系(分類、形態、生活感、病原性)と駆虫		
	13	寄生虫の分類と特徴 13	各種衛生動物総論・双翅類(分類、形態、生活感、病原性)と駆虫		
	14	寄生虫の診断と検査 1	各種検査法		
	15	寄生虫の診断と検査 2	各種診断法、小テスト		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物形態機能学実習(3 年)		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。				
到達目標	運動器や内臓器官、組織像を理解し、顕微鏡の適切な操作方法を修得する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト（第3版） 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ1巻 動物形態機能学／動物繁殖学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70% 小テスト：30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	顕微鏡の取り扱い 1	顕微鏡の各部名称と操作、管理		
	2	運動器 1	骨格標本を用いた関節の名称と構造、機能①		
	3	運動器 3	模型を用いた骨格筋の名称と構造、機能①		
	4	運動器 3	模型を用いた骨格筋の名称と構造、機能①		
	5	運動器 4	模型を用いた骨格筋の名称と構造、機能②		
	6	内臓器官 1	内臓器官の把握（模型、解剖）①、小テスト		
	7	内臓器官 2	内臓器官の把握（模型、解剖）②		
	8	内臓器官 3	内臓器官の把握（模型、解剖）③		
	9	内臓器官 4	内臓器官の把握（模型、解剖）④		
	10	内臓器官 5	雄の生殖器を含む特徴的な器官		
	11	内臓器官 6	雌の生殖器を含む特徴的な器官		
	12	組織像の観察 1	主要臓器の組織像観察と解剖①、小テスト		
	13	組織像の観察 2	主要臓器の組織像観察と解剖②		
	14	組織像の観察 3	主要臓器の組織像観察と解剖③		
	15	組織像の観察 4	主要臓器の組織像観察と解剖④、小テスト		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	動物内科看護学実習Ⅲ		担当教員	前鼻 彰人		
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。					
到達目標	診察補助と生体検査の技術を修得する。					
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト（第3版） 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ7巻 動物内科看護学／動物臨床検査学					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	70	評価試験：70 % 小テスト：30 %			
	レポート	0				
	小テスト	30				
	提出物	0				
	その他	0				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	診察補助 1	クロスマッチテストの手技			
	2	診察補助 2	輸血のモニタリング			
	3	診察補助 3	採尿（カテーテル）の手技①			
	4	診察補助 4	採尿（カテーテル）の手技②			
	5	診察補助 5	マイクロチップの基本的な手技			
	6	診察補助 6	マイクロチップの挿入手技①			
	7	診察補助 7	マイクロチップの挿入手技②			
	8	生体検査 1	眼科検査の補助①、小テスト			
	9	生体検査 2	眼科検査の補助②			
	10	生体検査 3	眼科検査の保定			
	11	生体検査 4	皮膚検査の補助①、小テスト			
	12	生体検査 5	皮膚検査の補助②			
	13	生体検査 6	皮膚検査の補助③			
	14	生体検査 7	外耳道検査の補助①、小テスト			
	15	生体検査 8	外耳道検査の補助②			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	公衆衛生学Ⅰ	担当教員	前鼻 彰人		
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。				
到達目標	疫学と疾病予防について理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ5巻 公衆衛生学/動物看護関連法規/動物愛護・適正飼養関連法規				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	評価試験：70% 小テスト：30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	公衆衛生の概要 1	公衆衛生の目的、概要		
	2	公衆衛生の概要 2	公衆衛生行政と獣医師		
	3	公衆衛生の概要 3	国民衛生		
	4	疫学と疾病予防 1	疫学概論		
	5	疫学と疾病予防 2	疫学の指標と研究方法		
	6	疫学と疾病予防 3	感染と対策		
	7	疫学と疾病予防 4	非感染症の疫学とサーベイランス		
	8	人獣共通感染症 1	病原体等に関する安全対策、小テスト		
	9	人獣共通感染症 2	伴侶動物と人が関係する主な人獣共通感染症 1		
	10	人獣共通感染症 3	伴侶動物と人が関係する主な人獣共通感染症 2		
	11	人獣共通感染症 4	伴侶動物と人が関係する主な人獣共通感染症 3		
	12	人獣共通感染症 5	伴侶動物と人が関係する主な人獣共通感染症 4		
	13	人獣共通感染症 6	伴侶動物と人が関係する主な人獣共通感染症 5		
	14	人獣共通感染症 7	再興感染症と新興感染症、小テスト		
	15	人獣共通感染症 8	狂犬病予防の重要性		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	ゼミⅡ	担当教員	佐藤 真帆		
対象年次・学期	愛玩動物看護師学科 3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	愛玩動物看護師として実務に関わる事例を用いて課題解決能力と論理思考能力を醸成する。				
到達目標	卒業論文を執筆し提出する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	文献リスト提出：10％ 章立て提出：15％ ドラフト提出：20％ 修正版提出：15％ 最終提出：40％		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
	その他	0			
履修上の留意事項	各回に設定された課題提出および個別指導への参加をもって出席とする。課題未提出の場合は当該回を欠席とする。 字数 6000～7000 字、文献は 5 本以上（学術論文（獣医系、看護系、医療系）を 2 本以上）、図表（1 つ以上、自作に限る）、テンプレに沿って執筆すること				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス（対面）	課題説明、領域説明、テンプレ確認、評価基準説明		
	2	テーマ提出（オンライン）	タイトル、背景、目的		
	3	文献リスト提出（オンライン）	文献リスト作成（5 本以上）、要約提出（150～200 字）		
	4	作成（オンライン）	進捗フォーム提出(webclass、100 字以上)		
	5	作成（オンライン）	進捗フォーム提出(webclass、100 字以上)		
	6	作成（オンライン）	進捗フォーム提出(webclass、100 字以上)		
	7	作成（オンライン）	進捗フォーム提出(webclass、100 字以上)		
	8	個別面談①（対面）	進捗の確認と面談（章構成案提出、図表案確認）		
	9	個別面談②（対面）	進捗の確認と面談（章構成案提出、図表案確認）		
	10	執筆（オンライン）	進捗フォーム提出(webclass、100 字以上)		
	11	執筆（オンライン）	進捗フォーム提出(webclass、100 字以上)		
	12	執筆（オンライン）	進捗フォーム提出(webclass、100 字以上)		
	13	全文ドラフト提出（オンライン）	ドラフト提出		
	14	修正版提出（オンライン）	修正版ドラフト提出		
15	最終提出（対面）	最終提出、振り返り（発表なし）			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

